

2022年11月期
第2四半期
決算補足説明資料

ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)
2022.7.14



T & S
Technology & Service

2022年11月期 第2四半期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高	p. 9
事業環境	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
業績予想進捗率	p. 14
トピックス	p. 16
株主還元	p. 19

(今期のテーマ)

成長の加速

1 過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 15億67百万円 (21.8%増 ↑、増加額: 2億81百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 2億86百万円 (66.5%増 ↑、増加額: 1億14百万円)	(同)
経常利益	: 2億94百万円 (65.3%増 ↑、増加額: 1億16百万円)	(同)
四半期純利益	: 2億 5百万円 (64.7%増 ↑、増加額: 80百万円)	(同)

2 先進技術ソリューションが躍進。その他のカテゴリーも順調推移

- 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同四半期比**74.5%増**と躍進。既存取引先からの開発支援案件の受注が安定していることや新規取引先からの受注が順調に推移したことにより売上高が拡大。
- ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**17.2%増**。前期後半から始まった大型開発案件が続いていることから増収。
- 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**25.2%増**。半導体工場への派遣技術者数の増加に伴い増収。

3 2Q累計売上高の進捗率が例年を上回り、業績連動賞与も引当計上

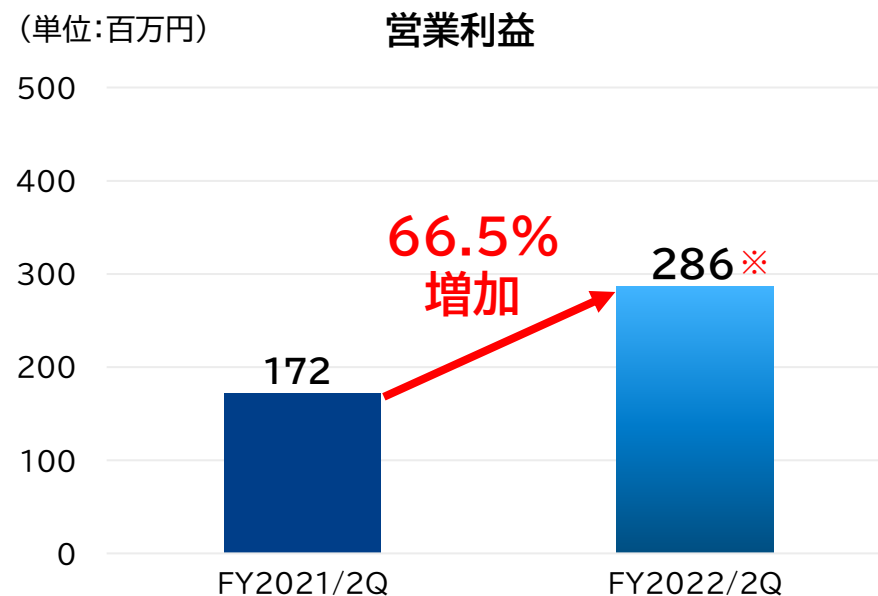
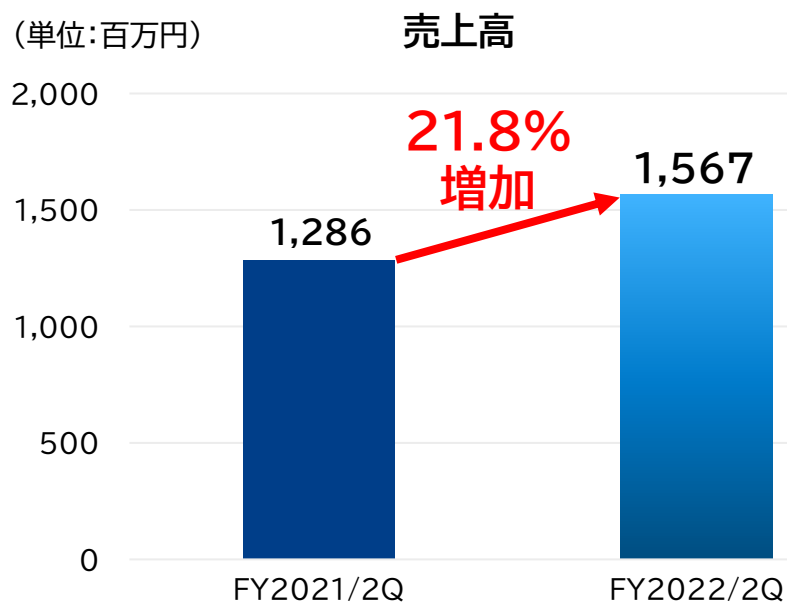
- 前期2Q累計売上高の構成比47.1%に対し、当期は通期予想に対する**進捗率が50.6%**となった。
- 前期に引き続き、営業利益の一部を従業員に還元。2Q分の業績連動賞与49百万円を引当計上するも、営業利益率**18.3%**を達成。(前年同四半期比4.9ポイント増)

決算概要

2022年11月期 第2四半期

過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 15億67百万円	(21.8%増 ↑ 増加額:	2億81百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 2億86百万円	(66.5%増 ↑ 増加額:	1億14百万円)	(同)
経常利益	: 2億94百万円	(65.3%増 ↑ 増加額:	1億16百万円)	(同)
四半期純利益	: 2億 5百万円	(64.7%増 ↑ 増加額:	80百万円)	(同)

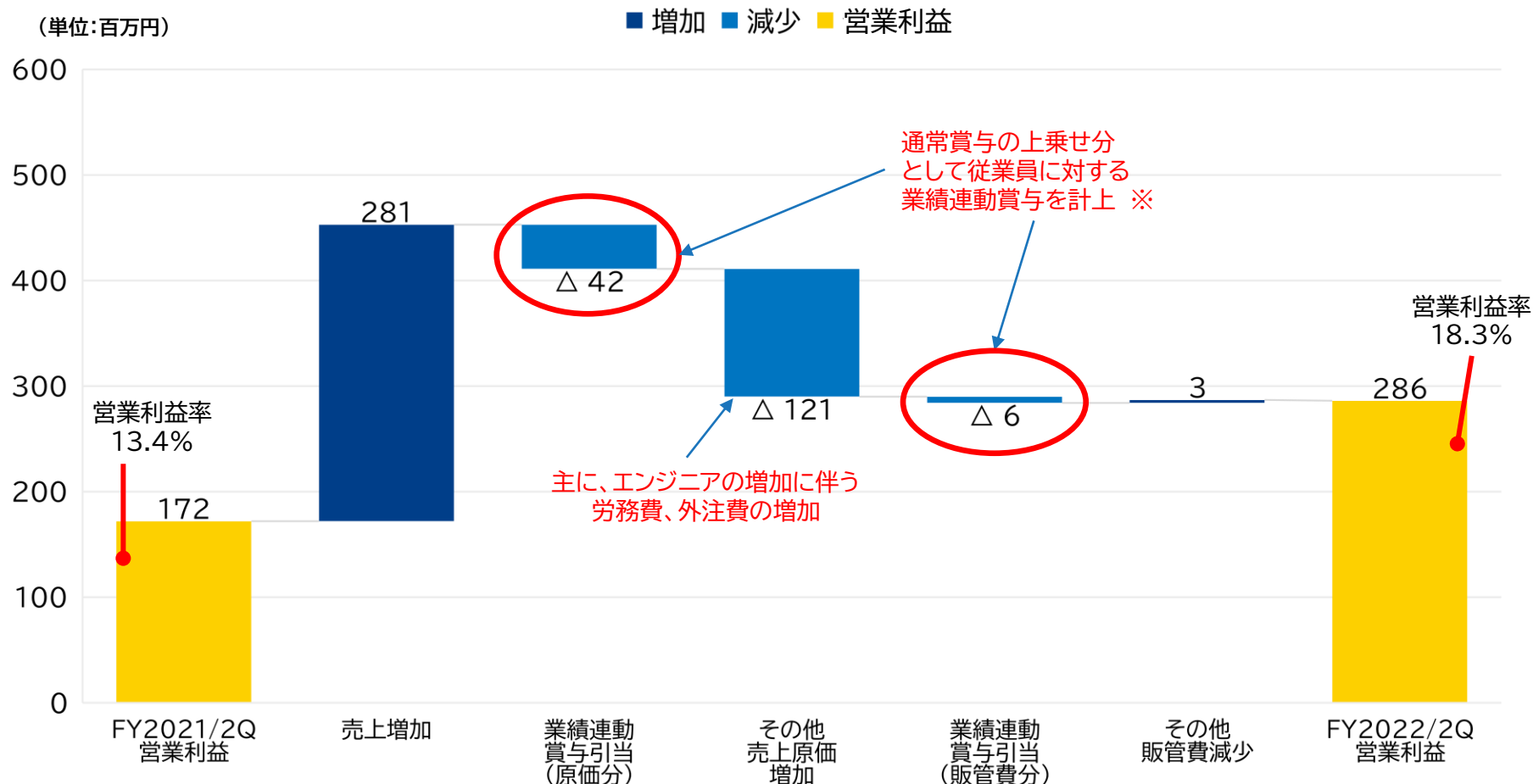


※好業績に鑑み、従業員向けの業績連動賞与をFY2022/2Qに49百万円、FY2021/2Qに25百万円計上しています。

営業利益の状況(FY2022/2Q)

業績連動賞与を吸収し、1億14百万円の営業利益増

(前年同四半期比)

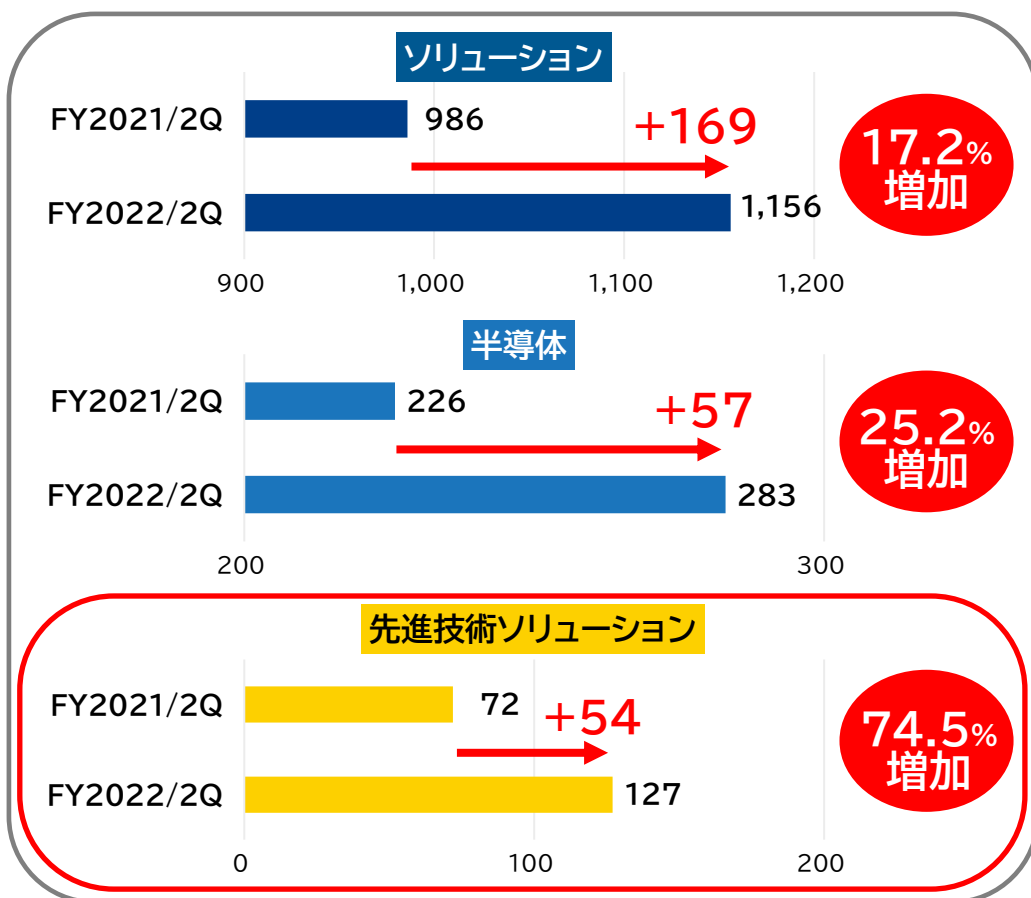


※FY2022/2Qに49百万円、FY2021/2Qに25百万円計上しています。

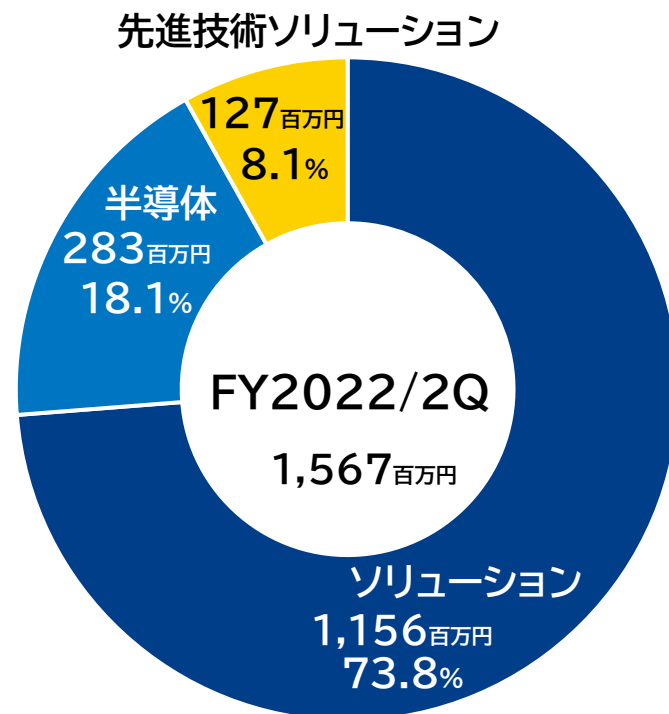
カテゴリー別売上高(FY2022/2Q)

全てのカテゴリーにおいて増収
先進技術ソリューションは**74.5%増加**
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) (単位:百万円)



売上比率(カテゴリー別)



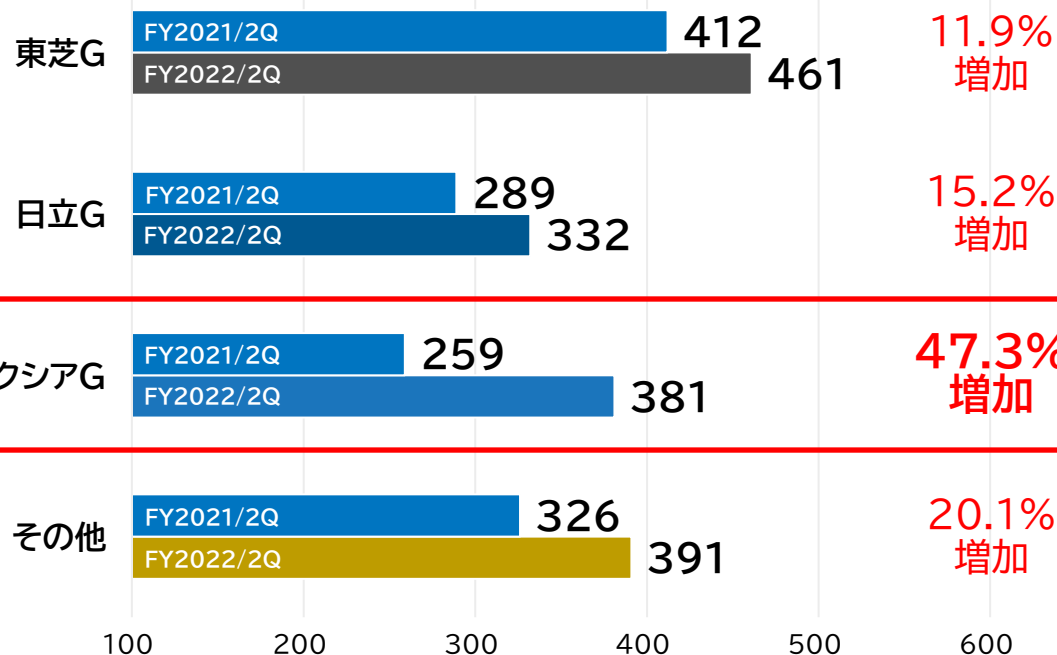
(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY2022/2Q)

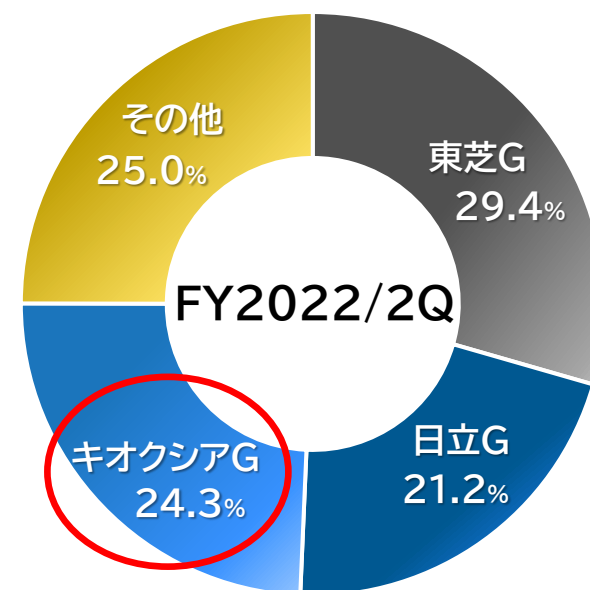
東芝G、日立G、キオクシアG

主要取引先は安定して推移
キオクシアGの増加が著しい
(47.3%増加(前年同四半期比) 構成比24.3%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



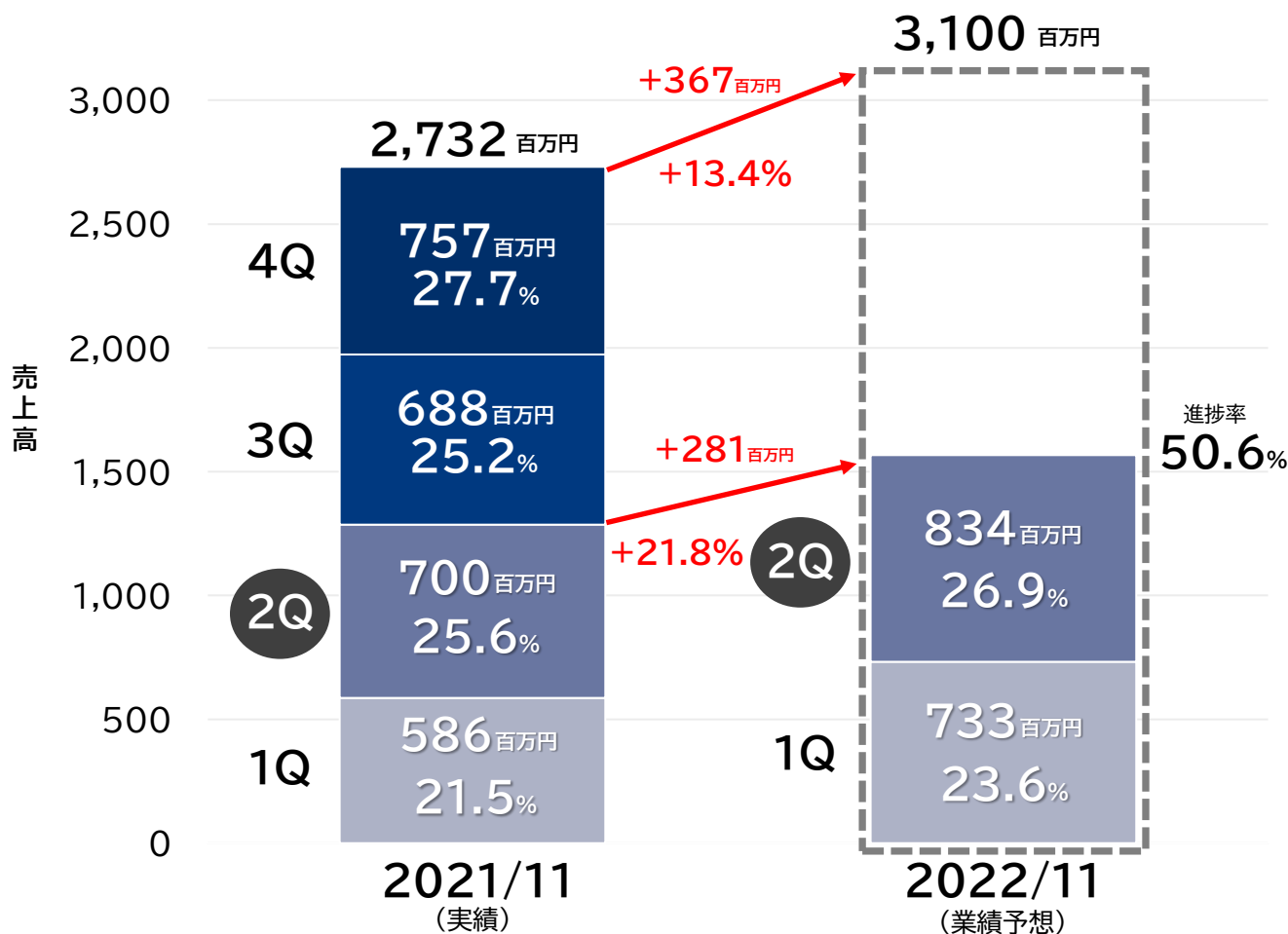
2Q累計売上高:15億67百万円

増加額: +281百万円 21.8%増加 進捗率:50.6%

(前年同四半期比)

(対通期業績予想進捗率)

(単位:百万円) 3,500



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

当社主要取引先の動向

(2022年7月14日現在)

当社の受注は引き続き好調であり、主要取引先全体としても好調。各社、新型コロナウイルスの影響は克服しつつある一方、地政学的リスクへの対応が課題となっています。

東芝G

車載用半導体やデータセンター向けのHDDが好調、受注高も前年比大幅増加。当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントも好調。インフラ系とデバイス系を軸とした中長期計画は当社にとって好都合とみています。

日立G

市況の回復とグループ会社の再編により、連続して最高益更新。ITとエネルギーセグメントが堅調で、当社業務に関連する設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、増加が期待されます。

キオクシアG

旺盛な半導体需要のもと、データセンタSSD、エンタープライズSSD向け出荷が好調。四日市工場の新製造棟建設に加え、北上工場の新製造棟が着工されるなど、当社にとっての受注拡大が期待されます。

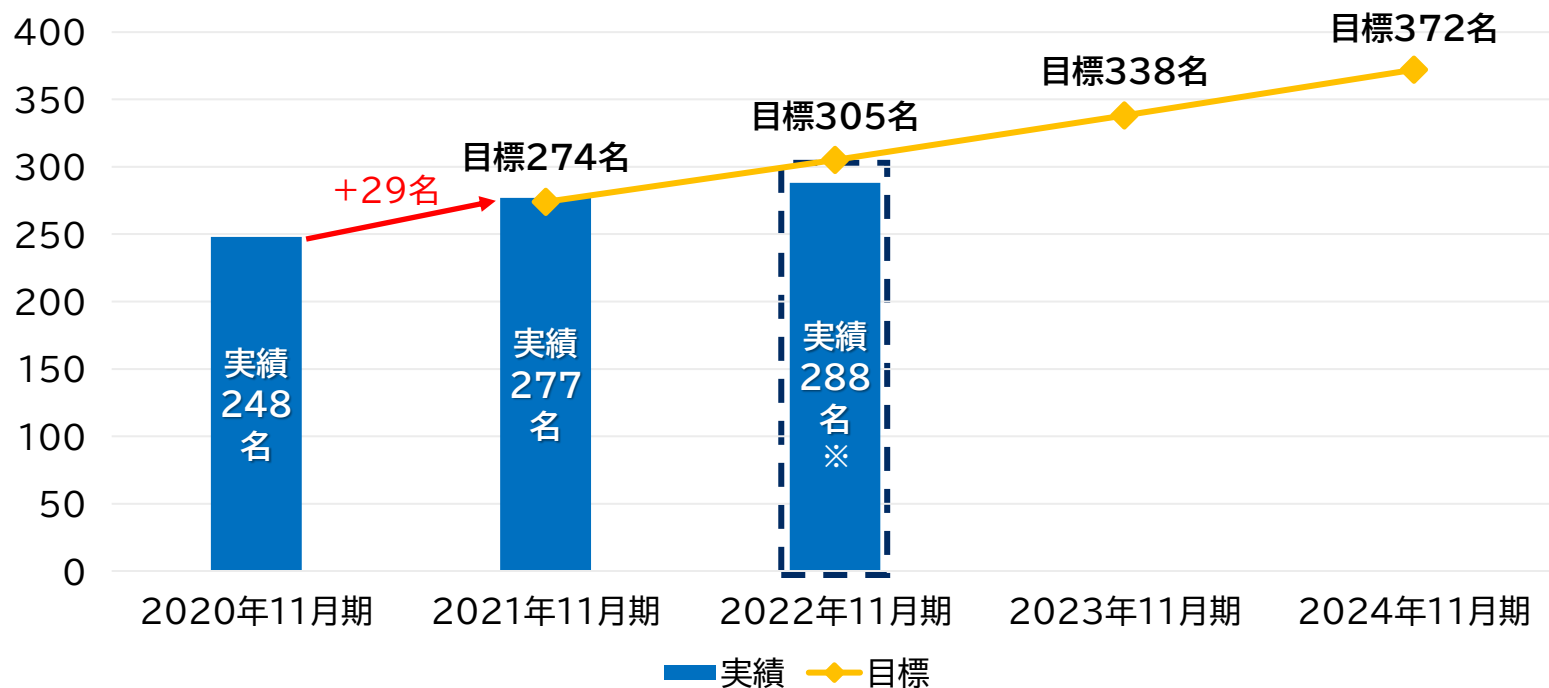
その他

AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカ、精密機械メーカ、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

増員率 **104%**※

増員方針 全エンジニア数の約10%

(単位:エンジニア数)



※2022年5月末時点

損益計算書(FY2022/2Q)

損益計算書(FY2022/2Q)

単位:千円	FY2021/2Q	FY2022/2Q	増減額	増減率
売上高	1,286,741	 1,567,800	281,059	21.8%
売上原価	916,680	1,080,574	163,894※	17.9%
売上総利益	370,060	487,226	117,165	31.7%
販売費及び一般管理費	197,868	200,544	2,676※	1.4%
営業利益	172,192	 286,681	114,489	66.5%
(営業利益率)	(13.4%)	(18.3%)		
経常利益	177,985	 294,155	116,169	65.3%
(経常利益率)	(13.8%)	(18.8%)		
四半期純利益	124,877	 205,717	80,840	64.7%
(四半期純利益率)	(9.7%)	(13.1%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与FY2022/2Qに49,000千円、FY2021/2Qに25,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY2022/2Q)

単位:千円	2021/11末	FY2022/2Q末	増減
流動資産	1,869,946	1,848,880	△21,066
固定資産	117,500	162,391	44,890
資産合計	1,987,447	2,011,272	23,824
流動負債	440,851	411,394	△29,456
固定負債	51,513	45,742	△5,771
負債合計	492,364	457,136	△35,228
株主資本合計	1,495,082	1,554,135	59,053
純資産合計	1,495,082	1,554,135	59,053
負債純資産合計	1,987,447	2,011,272	23,824

業績予想進捗率

2022年11月期 通期

通期予想に対し順調に推移

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2021年11月期 (実績)	2022年11月期 (予想)	2022年11月期 第2四半期(実績)	進捗率
売上高	2,732	3,100 (前期比:13.4%増)	1,567	50.6%
営業利益	412	550 (前期比:33.2%増)	286	52.1%
経常利益	419	557 (前期比:32.9%増)	294	52.8%
当期(四半期)純利益	294	391 (前期比:32.7%増)	205	52.6%

全社

売上高は前年同四半期比21.8%増。すべてのカテゴリーにおいて好調に推移。東芝G、日立G、キオクシアGといった主力顧客からの開発案件が堅調。今期2Q累計売上高は通期予想に対して50.6%の進捗となった。技術者リソースを補うため、外注の利用を増加させているが、好採算案件へのシフトも奏功し、粗利率は31.1%を確保。業績連動賞与の引当49百万円を吸収し、営業利益は286百万円と前年同期比66.5%増。営業利益率は18.3%。

ソリューション

前年同期比17.2%増。前期後半から始まった大型開発案件が続いており増収。

半導体

前年同期比25.2%増。半導体工場への技術者派遣者数が前年同期比で14.9%増となり、これに伴い増収。半導体工場からの経常的な増員要請のほか、契約条件の見直しも随時行っており、増収増益に寄与している。

先進技術
ソリューション

前年同期比74.5%増と躍進。前期に引き続き、NECからの受注が堅調に推移。既存取引先からの開発支援案件も安定しており全社に占める同カテゴリーの売上構成比は前年同期5.7%から、当期8.1%に拡大。

トピックス

熊本市内に5拠点目の事業所を開設

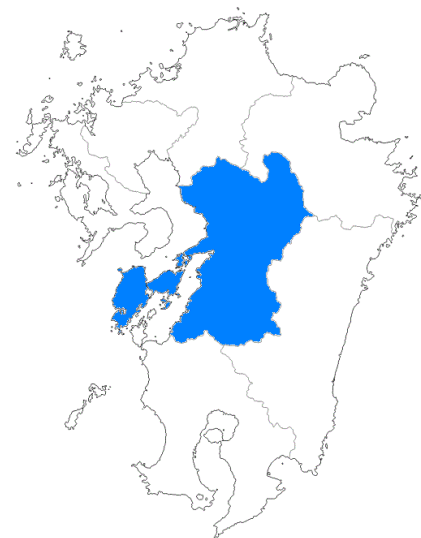
2022年7月に熊本県熊本市に事業所を開設しました。

- 九州地区は、半導体製造に関するサプライチェーンが集積する地域のひとつ
- 熊本県は国内の大手半導体関連企業グループの生産拠点多く立地
- 2024年末に半導体世界大手による製造開始が決定

このような顧客層をターゲットに、システム開発や保守運用サービスの受注を目指してまいります。

事業所の概要

- | | |
|-----------|---------------------|
| (1) 名 称 | : ティアンドエス株式会社 熊本事業所 |
| (2) 所 在 地 | : 熊本県熊本市中央区新市街 1-28 |
| (3) 開 設 日 | : 2022年7月1日 |



(出所) CraftMAP白地図をもとに作成

今後の成長投資やM&Aに備え、 機動的な資金調達を実現

本契約の概要

- (1) 契約形態 : 相対型コミットメントライン
- (2) 契約締結先 : 株式会社りそな銀行
- (3) 借入極度額 : 5億円
- (4) 契約締結日 : 2022年5月31日
- (5) 契約期間 : 3年
- (6) 資金使途 : 運転資金
- (7) 担保の有無 : 無担保・無保証
- (8) 目的 : 将来の事業活動における安定的な運転資金の確保
及び急な資金需要に迅速に対応するため

株主還元

2022年11月期の総還元性向は最大70.5%を予想しています

配当の基本方針

当社は、将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させることを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2022年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり5円00銭(実質1円増配)を予定しております。

これに加え、2022年1月から、自己株式の取得を行っております。(最大2億5千万円)

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	総還元性向(※)	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期(予想)	5円00銭	70.5%	25.1%

※ 自己株式を取得枠上限まで取得したと仮定した場合の値です。

2022年6月末時点の自己株式の取得状況は以下のとおりです。

取得した株式の総数	株式の取得価格の総額	取得期間(約定ベース)
121,300株	162,190,200円	2022年1月14日～2022年6月30日

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営管理部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。